

川崎市建築物環境配慮制度受付番号 24030

建築物名称	(仮称)幸区小倉二丁目プロジェクト新築工事
建築主	齊木 容子
建築物の所在地	川崎市幸区小倉二丁目1253番1、1253-口、1256-口合併、1256-イ、1257番1一部、1257番2一部
設計者氏名、建築士事務所名	塩川 博一 生和コーポレーション株式会社 一級建築士事務所
工事種別	新築
床面積の合計	2,404.47㎡
用途	共同住宅
構造	鉄筋コンクリート造
階数	地上5階
工事完了予定年月	令和7年7月
自然エネルギーの利用 (利用を検討した自然エネルギーの種類)	太陽光発電、太陽熱利用
自然エネルギーの利用 (利用を決めた自然エネルギーの種類)	なし

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)幸区小倉二丁目プロジェクト新築工事	階数	地上5F
建設地	川崎幸区小倉二丁目1053番1, 1053-01, 1053-02, 1053-03, 1053-04, 1053-05, 1053-06, 1053-07, 1053-08, 1053-09, 1053-10, 1053-11, 1053-12, 1053-13, 1053-14, 1053-15, 1053-16, 1053-17, 1053-18, 1053-19, 1053-20, 1053-21, 1053-22, 1053-23, 1053-24, 1053-25, 1053-26, 1053-27, 1053-28, 1053-29, 1053-30, 1053-31, 1053-32, 1053-33, 1053-34, 1053-35, 1053-36, 1053-37, 1053-38, 1053-39, 1053-40, 1053-41, 1053-42, 1053-43, 1053-44, 1053-45, 1053-46, 1053-47, 1053-48, 1053-49, 1053-50, 1053-51, 1053-52, 1053-53, 1053-54, 1053-55, 1053-56, 1053-57, 1053-58, 1053-59, 1053-60, 1053-61, 1053-62, 1053-63, 1053-64, 1053-65, 1053-66, 1053-67, 1053-68, 1053-69, 1053-70, 1053-71, 1053-72, 1053-73, 1053-74, 1053-75, 1053-76, 1053-77, 1053-78, 1053-79, 1053-80, 1053-81, 1053-82, 1053-83, 1053-84, 1053-85, 1053-86, 1053-87, 1053-88, 1053-89, 1053-90, 1053-91, 1053-92, 1053-93, 1053-94, 1053-95, 1053-96, 1053-97, 1053-98, 1053-99, 1053-100	構造	RC造
用途地域	第1種中高層住居専用 準防火地域	平均居住人員	50人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2025年7月 予定	評価の実施日	2024年7月31日
敷地面積	1,538 m ²	作成者	早川隆行
建築面積	588 m ²	確認日	2024年7月31日
延床面積	2,404 m ²	確認者	塩川博一

外観パース等
図を貼り付けるときは
シートの保護を解除してください

2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 1.0

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Q のスコア = 2.6

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.0

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 2.8

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.0

LR 環境負荷低減性 LR のスコア = 3.4

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.1

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.8

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.1

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目についての環境配慮概要		実績重点項目スコア 合計/ 重点項目最高点のスコア合計	重点項目への 貢献点注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		
緑の保全・回復(G)		Gの平均点	2.4
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策			
1 生物環境の保全と創出			
2 まちなみ・景観への配慮		1.6/4.3	1.8
3 3.2 敷地内温熱環境の向上			
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.2 温熱環境悪化の改善		0.5/0.8	3.0
地球温暖化防止対策の推進(W)		Wの平均点	3.0
Q-1 ■ 室内環境対策			
2 2.1 2.1.2 外皮性能			
3 3.1 3.1.3 昼光利用設備		1.6/2.4	3.3
3.2 3.2.1 昼光制御			
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策			
1 生物環境の保全と創出			
3 3.2 敷地内温熱環境の向上		0.8/2.3	1.7
LR-1 ■ エネルギー対策			
1 建物外皮の熱負荷抑制	等級4		
2 自然エネルギーの利用		4.1/5.0	4.1
3 設備システムの高効率化	BEI=0.85		
4 効率的運用			
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策			
1 水資源保護			
2 非再生性資源の使用量削減		2.7/4.7	2.8
3 3.2 フロン・ハロンの回避	ODP=0かつGWP=10以下の発泡剤を用いた断熱材を使用		
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.2 温熱環境悪化の改善		0.5/0.8	3.0
資源の有効利用による循環型地域社会の形成(R)		Rの平均点	2.7
Q-2 ■ サービス性能対策			
2 2.2 部品・部材の耐用年数		0.3/0.5	2.8
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策			
1 水資源保護			
2 非再生性資源の使用量削減		2.1/4.0	2.6
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.3 地域インフラへの負荷抑制	適切な量の駐輪場・駐車場を確保し、利便性に配慮。	0.3/0.4	3.6
ヒートアイランド現象の緩和(H)		Hの平均点	2.9
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策			
1 生物環境の保全と創出			
3 3.2 敷地内温熱環境の向上		0.8/2.3	1.7
LR-1 ■ エネルギー対策			
1 建物外皮の熱負荷抑制	等級4		
2 自然エネルギーの利用		4.1/5.0	4.1
3 設備システムの高効率化	BEI=0.85		
4 効率的運用			
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.2 温熱環境悪化の改善		0.5/0.8	3.0

注)重点項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

重点項目への貢献点の平均点 **2.8**

ライフサイクルCO2評価対象項目についての環境配慮概要		実績スコア合計/ 最高点のスコア合計	ライフサイクル CO2評価対象 項目への 貢献点注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		
建設段階			
Q-2 ■ サービス性能対策			
2 2.2 2.2.1 躯体材料の耐用年数		0.1/0.1	3.0
修繕・更新・解体段階			
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策			
2 2.2 既存建築躯体等の継続利用		0.8/1.3	3.0
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			
運用時のエネルギー			
LR-1 ■ エネルギー対策			
1 建物外皮の熱負荷抑制	等級4		
2 自然エネルギーの利用		4.1/5.0	4.1
3 設備システムの高効率化	BEI=0.85		
4 効率的運用			

注)ライフサイクルCO2評価対象項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

スコアシート		実施設計段階				重点項目					環境配慮設計の概要記入欄		評価点		重み係数		全体	
配慮項目	重点項目	G	W	R	H	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体							
											評価点	重み係数						
Q 建築物の環境品質																		2.6
Q1 室内環境												0.40		-				3.0
1 音環境												0.15	3.4	1.00				3.4
1.1 室内騒音レベル											-	-	3.0	0.50				
1.2 遮音											-	-	3.8	0.50				
1 開口部遮音性能											-	-	3.0	0.30				
2 界壁遮音性能											-	-	3.0	0.30				
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)											-	-	5.0	0.20				
4 界床遮音性能(重量衝撃源)											-	-	5.0	0.20				
1.3 吸音											-	-	-	-				
2 温熱環境												0.35	3.1	1.00				3.1
2.1 室温制御											-	-	3.3	0.50				
1 室温											-	-	3.0	0.63				
2 外皮性能											-	-	4.0	0.38				
3 ゾーン別制御性											-	-	-	-				
2.2 湿度制御											-	-	3.0	0.20				
2.3 空調方式											-	-	3.0	0.30				
3 光・視環境												0.25	2.8	1.00				2.8
3.1 昼光利用											-	-	4.0	0.30				
1 昼光率											-	-	5.0	0.50				
2 方位別開口											-	-	3.0	0.30				
3 昼光利用設備											-	-	3.0	0.20				
3.2 グレア対策											-	-	3.0	0.30				
1 昼光制御											-	-	3.0	1.00				
3.3 照度											-	-	3.0	0.15				
3.4 照明制御											-	-	1.0	0.25				
4 空気質環境												0.25	3.0	1.00				3.0
4.1 発生源対策											-	-	3.0	0.63				
1 化学汚染物質											-	-	3.0	1.00				
4.2 換気											-	-	3.0	0.38				
1 換気量											-	-	3.0	0.33				
2 自然換気性能											-	-	3.0	0.33				
3 取り入れ外気への配慮											-	-	3.0	0.33				
4.3 運用管理											-	-	-	-				
1 CO ₂ の監視											-	-	-	-				
2 喫煙の制御											-	-	-	-				
Q2 サービス性能												0.30	-	-				2.8
1 機能性												0.40	3.0	1.00				3.0
1.1 機能性・使いやすさ											3.0	0.57	3.0	0.60				
1 広さ・収納性											-	-	-	-				
2 高度情報通信設備対応											-	-	3.0	1.00				
3 バリアフリー計画											3.0	1.00	-	-				
1.2 心理性・快適性											-	-	3.0	0.40				
1 広さ感・景観											-	-	3.0	0.50				
2 リフレッシュスペース											-	-	-	-				
3 内装計画											-	-	3.0	0.50				
1.3 維持管理											3.5	0.43	-	-				
1 維持管理に配慮した設計											3.0	0.50	-	-				
2 維持管理用機能の確保											4.0	0.50	-	-				
維持管理用機能の確保に取り組んでいる。																		
2 耐用性・信頼性												0.30	-	-				2.6
2.1 耐震・免震・制震・制振											3.0	0.50	-	-				
1 耐震性(建物のこわれにくさ)											3.0	0.80	-	-				
2 免震・制震・制振性能											3.0	0.20	-	-				
2.2 部品・部材の耐用年数											2.8	0.30	-	-				
1 躯体材料の耐用年数											3.0	0.20	-	-				
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔											2.0	0.20	-	-				
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔											3.0	0.10	-	-				
4 空調換気ダクトの更新必要間隔											3.0	0.10	-	-				
5 空調・給排水配管の更新必要間隔											3.0	0.20	-	-				
6 主要設備機器の更新必要間隔											3.0	0.20	-	-				
2.4 信頼性											1.6	0.20	-	-				
1 空調・換気設備											3.0	0.20	-	-				
2 給排水・衛生設備											2.0	0.20	-	-				
3 電気設備											1.0	0.20	-	-				
4 機械・配管支持方法											1.0	0.20	-	-				
5 通信・情報設備											1.0	0.20	-	-				

3	対応性・更新性								3.0	0.30	2.8	1.00	2.8
	3.1 空間のゆとり								-	-	2.6	0.50	
	1 階高のゆとり								-	-	3.0	0.60	
	2 空間の形状・自由さ								-	-	2.0	0.40	
	3.2 荷重のゆとり								-	-	3.0	0.50	
	3.3 設備の更新性								3.0	1.00	-	-	
	1 空調配管の更新性								3.0	0.20	-	-	
	2 給排水管の更新性								3.0	0.20	-	-	
	3 電気配線の更新性								3.0	0.10	-	-	
	4 通信配線の更新性								3.0	0.10	-	-	
	5 設備機器の更新性								3.0	0.20	-	-	
	6 バックアップスペースの確保								3.0	0.20	-	-	
Q3	室外環境(敷地内)								-	0.30	-	-	2.0
1	生物環境の保全と創出	G	W			H	-		1.0	0.30	-	-	1.0
2	まちなみ・景観への配慮	G					-		2.0	0.40	-	-	2.0
3	地域性・アメニティへの配慮						-		3.0	0.30	-	-	3.0
	3.1 地域性への配慮、快適性の向上						-		3.0	0.50	-	-	
	3.2 敷地内温熱環境の向上	G	W			H	-		3.0	0.50	-	-	
LR	建築物の環境負荷低減性								-	-	-	-	3.4
LR1	エネルギー								-	0.40	-	-	4.1
1	建物外皮の熱負荷抑制		W			H	等級4		4.0	0.20	-	-	4.0
2	自然エネルギー利用		W			H	-		2.0	0.10	-	-	2.0
3	設備システムの高効率化		W			H	BEI=0.85		5.0	0.50	-	-	5.0
4	効率的運用								3.0	0.20	-	-	3.0
	集合住宅以外の評価								-	-	-	-	
	4.1 モニタリング		W			H	-		-	-	-	-	
	4.2 運用管理体制		W			H	-		-	-	-	-	
	集合住宅の評価								3.0	1.00	-	-	
	4.1 モニタリング		W			H	-		3.0	0.50	-	-	
	4.2 運用管理体制		W			H	-		3.0	0.50	-	-	
LR2	資源・マテリアル								-	0.30	-	-	2.8
1	水資源保護		W			R			3.0	0.20	-	-	3.0
	1.1 節水						-		3.0	0.40	-	-	
	1.2 雨水利用・雑排水等の利用						-		3.0	0.60	-	-	
	1 雨水利用システム導入の有無						-		3.0	1.00	-	-	
	2 雑排水等利用システム導入の有無						-		3.0	-	-	-	
2	非再生性資源の使用量削減								2.5	0.60	-	-	2.5
	2.1 材料使用量の削減		W			R	-		3.0	0.11	-	-	
	2.2 既存建築躯体等の継続使用		W			R	-		3.0	0.22	-	-	
	2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		W			R	-		3.0	0.22	-	-	
	2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		W			R	-		1.0	0.22	-	-	
	2.5 持続可能な森林から産出された木材		W			R	-		-	-	-	-	
	2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		W			R	-		3.0	0.22	-	-	
3	汚染物質含有材料の使用回避								3.7	0.20	-	-	3.7
	3.1 有害物質を含まない材料の使用						-		3.0	0.30	-	-	
	3.2 フロン・ハロンの回避						-		4.0	0.70	-	-	
	1 消火剤		W				-		-	-	-	-	
	2 発泡剤(断熱材等)		W				ODP=0かつGWP=10以下の発泡剤を用いた断熱材を使用		4.0	1.00	-	-	
	3 冷媒		W				-		-	-	-	-	
LR3	敷地外環境								-	0.30	-	-	3.1
1	地球温暖化への配慮		W				排出率 93%		3.2	0.33	-	-	3.2
2	地域環境への配慮								3.0	0.33	-	-	3.0
	2.1 大気汚染防止						-		3.0	0.25	-	-	
	2.2 温熱環境悪化の改善	G	W			H	-		3.0	0.50	-	-	
	2.3 地域インフラへの負荷抑制						-		3.2	0.25	-	-	
	1 雨水排水負荷低減					R	-		3.0	0.25	-	-	
	2 汚水処理負荷抑制					R	-		3.0	0.25	-	-	
	3 交通負荷抑制					R	駐輪場、駐車場の適切な量の確保、利便性配慮		4.0	0.25	-	-	
	4 廃棄物処理負荷抑制					R	-		3.0	0.25	-	-	
3	周辺環境への配慮								3.2	0.33	-	-	3.2
	3.1 騒音・振動・悪臭の防止								3.0	0.40	-	-	
	1 騒音						-		3.0	0.33	-	-	
	2 振動						-		3.0	0.33	-	-	
	3 悪臭						-		3.0	0.33	-	-	
	3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制								3.0	0.40	-	-	
	1 風害の抑制						-		3.0	0.70	-	-	
	2 砂塵の抑制						-		3.0	-	-	-	
	3 日照阻害の抑制						-		3.0	0.30	-	-	
	3.3 光害の抑制								4.4	0.20	-	-	
	1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策						広告物照明無し		5.0	0.70	-	-	
	2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策						-		3.0	0.30	-	-	

評価する取組み	合計	合計2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13
Q2 サービス性能															
1.2.3 内装計画	-	2.0	-	-	-	-	○	○	-	-	-	-	-	-	-
1.3.1 維持管理に配慮した設計	4.0	-	○	○	-	-	-	-	○	-	-	○	-	-	-
1.3.2 維持管理用機能の確保	9.0	-	○	○	○	○	○	-	○	-	-	○	○	○	-
2.4.1 空調・換気設備	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.2 給排水・衛生設備	1.0	1.0	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.3 電気設備	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.5 通信・情報設備	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Q3 室外環境(敷地内)															
1 生物資源の保全と創出	3.0	-	-	-	1.0	-	-	-	1.0	-	-	1.0	-	-	-
2 まちなみ・景観への配慮	1.0	-	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	2.0	-	-	-	-	-	-	1.0	1.0	-	-	-	-	-	-
3.2 敷地内温熱環境の向上	6.0	-	-	2.0	-	2.0	-	-	-	-	1.0	1.0	-	-	-
LR1 エネルギー															
2 自然エネルギー利用	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR2 資源・マテリアル															
1.2.2 雑排水等再利用システム導入の有無	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.1 材料使用量の削減	1.0	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 有害物質を含まない材料の使用	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR3 敷地外環境															
2.2 温熱環境悪化の改善	9.0	-	-	-	3.0	1.0	-	-	-	2.0	3.0	-	-	-	-
2.3.3 交通負荷抑制	3.0	-	1.0	-	1.0	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制	3.0	-	1.0	1.0	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.2.2 砂塵の抑制	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.3.1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	4.0	-	2.0	2.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

主な指標

Q1 室内環境

2.1.3 外皮性能

窓システムSC - 窓の日射熱取得率(η) -	外壁 -	床 -
U値(W/m2K) 窓システム -	屋根 -	
住戸部分システムU値 -	外皮UA値 -	η AC - η AH -

3.1.1 昼光率

昼光率 4.1%

4.2.2 自然換気性能

自然換気有効開口率 3.3%

Q2 サービス性能

1.1.1.1 広さ・収納性

執務スペース 6.0㎡/人 病床 8.0㎡/床 シングル 15.0㎡ ツイン 22.0㎡

1.1.2 高度情報通信設備対応

コンセント容量 30.0 VA/㎡

1.2.1 広さ感・景観

天井高 2.5 m

1.2.2 リフレッシュスペース

リフレッシュスペース 0.5% レストスペース 2.0%

2.2.1 躯体材料の耐用年数

想定耐用年数 25 年

2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔

想定必要間隔 20 年

2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔

想定必要間隔 0 年

2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔

想定必要間隔 0 年

3.1.1 階高のゆとり

階高 2.81 m

3.1.2 空間の形状・自由さ

壁長さ比率 50.0%

3.2 荷重のゆとり

床荷重 1800 N/m2

Q3 室外環境(敷地内)

1 生物資源の保全と創出

外構緑化指数 33% 建物緑化指数 0%

3.2 敷地内温熱環境の向上

空地率 62% 水平投影面積率 0% 地表面対策面積率 20% 舗装面積率 0%

LR1 エネルギー

1 建物外皮の熱負荷抑制

BPI/BPI_m - 昇熱等性能等級 等級4 相当

2 自然エネルギー利用

自然エネルギー直接利 0 MJ/年㎡ 採光を満たす教室数 0.0% 採光を満たす住戸数 0.0%

通風を満たす教室数 0.0% 通風を満たす住戸数 0.0%

3 設備システムの高効率化

BPI/BPI_m 非住宅 - 住宅 0.85 太陽光 .0kW 太陽熱等 .0kW 蓄電池 .0kW

LR2 資源・マテリアル

1.2.1 雨水利用システム導入の有無

雨水利用率 0.0%

2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用

特定調達品E - エコマーク商品 - 自治体指定の特定品目等 -

2.5 持続可能な森林から産出された木材

使用比率 5.0%

3.2.1 消火剤

オゾン層破壊係数(C 地球温暖化係数(GWP)

3.2.2 発泡剤(断熱材等)

オゾン層破壊係数(C 0 地球温暖化係数(GWP) 1.3

3.2.3 冷媒

オゾン層破壊係数(C 0 地球温暖化係数(GWP) 8

LR3 敷地外環境

2.2 温熱環境悪化の改善

見付面積比 66% | 棟間隔指標Rw 0.79

地表面対策面積率 20.0% 屋根面対策面積率 #DIV/0! 外壁面対策面積率 #DIV/0!

見付面積Sb 329㎡ | 越風向と直交する最大敷地幅Ws 49.89 m 基準高さHb 9.91 m

緑地 315㎡ 水面 ㎡ 保水性対策面 ㎡ 高反射対策面 ㎡ 再帰性反射対策面 ㎡